

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-58

学校名・団体名	西尾市立幡豆中学校
HPアドレス	http://www.nishio.ed.jp/hazu-chu/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	学びと学校生活のバリアフリーをめざして
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ユニバーサルデザインの視点（焦点化、視覚化、共有化、スモールステップ）を取り入れた授業改善と、山場を授業の中心にした授業展開の工夫を行うことにより、授業の中での生徒の学びにくさ（学習バリアー）を改善し、全員参加の「わかる」「できる」喜びを感じる授業の実現を図り、意欲的に学習に取り組む生徒を育てる。・インクルーシブ教育の推進に向け、学校生活全般においても生活のしにくさ（学校生活バリアー）の改善を図り、「確かな毎日」の実践により、弱い自分に負けない強い心と人を思う温かな心をもった生徒を育てる。	

1 活動時期および内容

(1) 授業スタンダードの作成と実践 (4月~3月)

・研究を進めるにあたり、それぞれの先生の授業スタイルもあるが、生徒にとってわかりやすい授業展開の工夫を明星大学小貫悟先生の指導の下、右の図のような授業展開を考えた。授業の前半は、問題解決学習とし、生徒に学習課題(めあて)を与えて学習活動に取り組む。この問題解決学習は生徒にとって知的好奇心が持てるようなしかけを取り入れる。前半の学習課題を解決して得た知識や考えを、後半での教授型学習で、習得・適用、応用・活用に取り組み、知識としての定着をはかる。

この学習展開のもと、言語などの認識が難しい場合の「**視覚化**」、自分一人では考えられない場合の「**共有化**」、課題解決に向けた「**スモールステップ**」といった、**指導の工夫**を取り入れることで、つまづきなく学習が進むような授業を考え、取り組んだ。

《ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業研究》

- 5 / 2 1...2年 数学科「文字を使って謎を解こう」
- 5 / 2 7...2年 美術科「自分のがんばっている姿」
- 6 / 1...1年 社会科『『るるぶ』を作ってみませんか』
- 6 / 1 1...2年 保健体育科「目指せ！回転系の達人」、1年 技術科「目指せ！ものづくりの匠」
- 6 / 1 5...3年 国語科「俳句の世界に親しもう」
- 6 / 1 9...3年 理科「ピーターコーンの親を見つけよう！」
- 7 / 2...3年 音楽科「音楽から見える景色」
特別支援 生活単元「オリエンテーション合宿、修学旅行に行ってきたよ」
- 7 / 9...3年 英語科My favorite MANGA!
- 10 / 1 9...1年 国語科「わかりやすい文章の秘密を探ろう」
1年 英語科「幡豆のゆるキャラグランプリ」

10 / 2 8...研究発表会(参観者550名)

(3) 生活のしにくさを改善する「確かな毎日」の実践 (4月~3月)

・幡豆中スタンダードの作成

「あいさつ」「清掃」「給食」「時間」「服装」など、学校生活で頑張ることや守ることを明確な姿の基準で示した。あるべき姿の理解を図ることで、発達障がいのある生徒にも、どのように行動してよいかわかりやすく示した。

・学習スタンダード

学習時においてもいろいろなルールがある。小学校のように学級担任がほとんどの授業をしているのであれば、同じルールで授業も進むが、教科担任制の中学校では担当者ごとに学習ルールも違ってくる。これでは発達障がいのある生徒にとって学びにくさを感じる。そこで、学校共通の学習ルールを作成した(右図)。この共通したルールにより学習を進めた。

(4) コミュニケーションスキルの向上 (4月~3月)

・フリートークの実践(月に2~3回実施)

テーマを決め、そのテーマについて話し合う活動を通し、友達の理解を深めるとともに、友達との意思疎通の方法を学ぶ活動を行った。朝の学習の15分間を利用し、テーマについて自由に話し合った。

《実施した主なトークテーマ》

「好きなスポーツは?」「今一番ほしいものは?」(情報提供型)

「あなたは犬派?猫派?」「中学生にスマホは必要か?」(対立型)

「もしも宝くじで百万円が当たったら?」(想像型)「先生の悩みを聴いてください。」(悩み型)

※上記4つの話し合いのパターンで、話し合い方に変化をつけてスキルアップに取り組んだ。

(5) セルフコントロールスキルの向上

・Q-Uテストの実施と分析(6月、12月)

Q-Uテストを6月と12月に実施した。6月のテストでは学級の状態がどのような状態であり、配慮の必要な生徒や今後どのような方針で指導して行くかを検討した。12月のテストでは、学級集団と配慮の必要な生徒がどのように変容したかを確かめた。そして、今後どのようなことに配慮して指導していくか、次年度に向けて配慮すべき生徒への支援計画を検討した。

授業スタンダード(授業展開の工夫)

- ①学習の導入
↓ (魅力的な導入の工夫)
学習課題(生徒の学習活動のめあて)
- ②問題解決学習(前半の活動)
↓ ※追究・思考活動
↓ (教材のしかけ)
↓ (指導の工夫)
- ③生徒が学習課題(めあて)に至る場面
↓ ※授業の山場
- ④講義・実習型学習(後半の活動)
↓ ※学習内容の習得・活用
↓ (指導の工夫)
- ⑤学習のまとめ
※まとめの言語化
(他の生徒へのシェア)

幡豆中 学習スタンダード

《書くとき》

- 1 誰か人にわかりやすい文字で
- 2 口を開けて
- 3 ペンは正しく持って

《聞くとき》

- 1 体と顔を相手に向けて
- 2 うなずきながら、何を伝えたいかを考えて

《話すとき》

- 1 最後まではっきり
- 2 一番遠い人に聞こえる声で
- 3 「〇〇だと思います。理由は□□だからです。」

《その他》

- 1 床に足をつける
- 2 両手で本を持って読む
- 3 進んで自分の考えを発表する
- 4 いすをしまい、全員そろってあいさつする



2 活動の成果

(1) 生徒の学ぶ意欲の向上

以前見られた机に伏す生徒の姿は見られなくなり、すすんで授業に参加する生徒の姿が多く見られるようになった。生徒Nは、ADHDの障がいがある。入学当初は、好きな教科には参加するが、英語や国語などに関心を示さず、好きな図鑑を広げていた。しかし、その彼も、現在では関心を示さなかった英語の学習にも取り組み、国語の授業でもすすんで発言する姿が見られるようになった。10月28日に行った研究発表会の参観者からも、本校生徒の活発な発言やグループ活動に多くの賞賛の言葉をいただき、本校生徒の学習意欲の高さを実感した。

(2) 学力の向上

学力の向上については、客観的な数値として、全国学力テストの結果がある。本研究に取り組んでからの結果は、平均正答率が全国平均を上回る結果となっている。これは、下位層の生徒の減少により、正答率が向上したものである。つまづきを想定して、わかりやすい授業に心がけた成果と考える。

(3) 仲間意識の向上

本年度の生徒会役員選挙の立会演説会で、多くの生徒が「全校生徒の交流を深めたい。」と、意見を述べていた。学年を越えた絆づくりを求める仲間意識が高まり、「交流」を掲げた行事が多く行われた。授業でも、友達の見解を大切に、同じ意見ならうなずくなど、ともに学び意識が育ってきた。